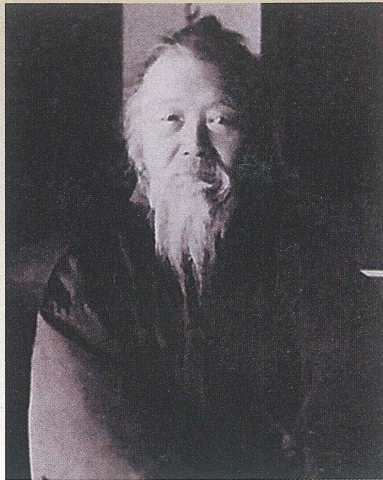
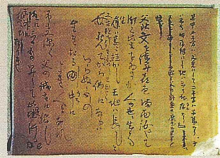


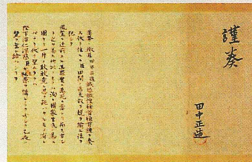
## 田中正造展示室



田中正造（70歳の時）



政治を志す決意文



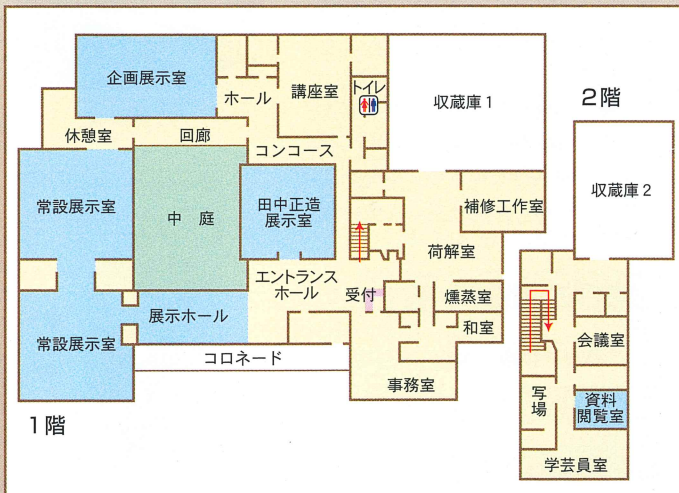
直訴状



正造遺品の小石（3個）



非戦主義を唱える扇面



## 佐野の文化散歩

### 佐野市葛生化石館

佐野市葛生東1-11-15（葛生駅より徒歩8分）TEL.0283-86-3332  
 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、祝日の翌日（祝日の翌日が土・日曜の場合は開館）、年末年始、その他臨時休館日あり  
 開館時間：午前9時～午後5時 <https://www.city.sano.lg.jp/kuzuufossil/>

### 佐野市葛生伝承館

佐野市葛生東1-11-26（葛生駅より徒歩8分）TEL.0283-84-3311  
 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、祝日の翌日（祝日の翌日が土・日曜の場合は開館）、展示替え期間、年末年始  
 開館時間：午前9時～午後5時 <https://www.city.sano.lg.jp/densyoukan/>

### 佐野市立吉澤記念美術館

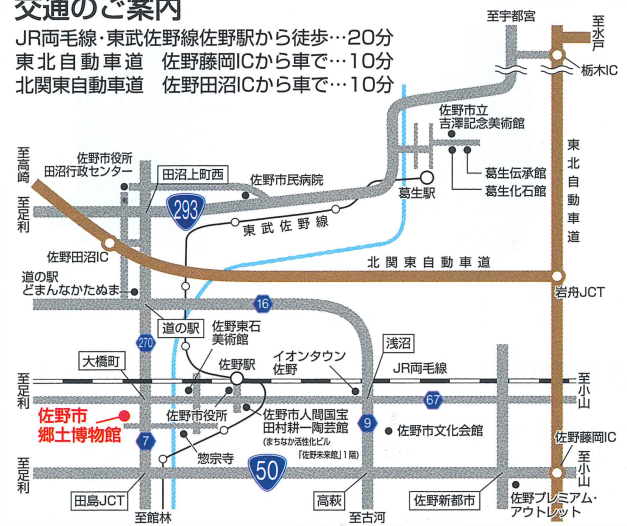
佐野市葛生東1-14-30（葛生駅より徒歩8分）TEL.0283-86-2008  
 休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）、祝日の翌日（祝日の翌日が土・日曜の場合は開館）、展示替え期間、年末年始  
 開館時間：午前9時30分～午後5時 <http://www.city.sano.lg.jp/museum/>

### 佐野市人間国宝田村耕一陶芸館（「佐野未来館」1階）

佐野市高砂町2794-1（佐野駅より徒歩5分）TEL.0283-22-0311  
 休館日：12/30～1/1、その他臨時休館日あり  
 開館時間：午前9時～午後5時

### 交通のご案内

JR両毛線・東武佐野線佐野駅から徒歩…20分  
 東北自動車道 佐野藤岡ICから車で…10分  
 北関東自動車道 佐野田沼ICから車で…10分



## 佐野市郷土博物館

〒327-0003 栃木県佐野市大橋町2047  
 TEL.0283-22-5111(代) FAX.0283-22-5112  
<https://sano-haku.com>

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌日休館）  
 祝日の翌日（祝日の翌日が土・日曜の場合は開館）  
 毎月末日、年末年始、その他臨時休館日あり
- 入館料 無料（企画展開催時は有料、詳細はお問い合わせください）

## 田中正造ゆかりの博物館 佐野市郷土博物館



# 原始から近現代へ



## 佐野の源流をたずねて

### 手から道具へ

ヒトとサルの本能的な相違は、直立二足歩行と道具の製作にあります。ヒトは、石器やその他の道具を作り、動物などを捕え食糧としていました。

日本列島に人類が住み始めたのは、まだ中国大陸と陸続きになっていた寒冷な気候の旧石器時代で、佐野市域にも遺跡が点在し、ナイフ型石器などが出土しています。



旧石器時代の石器

### 土器製作の開始

日本では約15,000年前に土器が作られ始め、採集狩猟生活を基本とする縄文時代となります。土器は食物の煮炊きに利用され、食糧となる動植物の範囲も広がりました。また、縄文土器はさまざまな文様で飾られ、時代や地方によって違いがみられます。



縄文時代の遺物

### 出流原遺跡

出流原遺跡は、弥生時代中期（約2,000年前）の共同墓地で、37基の墓壇と100個以上の土器が発見されています。

当時の葬制は、土葬などによって白骨化した遺骨を洗骨し、壺に入れて埋葬するという再葬墓制の風習がありました。



出流原遺跡出土の人面付細頸壺形土器(複製)と細頸壺形土器

## 古代の佐野

4~6世紀は全国各地に古墳が作られた時代で、八幡山古墳などもこの時期のもので、佐野市域では7世紀にいたっても古墳が作られ、古代の集落遺跡も数多く発見されています。

奈良・平安時代には三轟山周辺で瓦や須臾器が盛んに生産され、関東地方でも有数の窯業遺跡群が残されました。



衝角付青と短甲(八幡山古墳)



軒丸瓦と軒平瓦(大日堂廃寺)

## 中世の佐野

鎌倉・室町時代の佐野市域は、唐沢山周辺を拠点とした佐野氏を中心に、小野寺氏や阿曾沼氏の興亡に明け暮れました。戦国時代には佐野氏が唐沢山に城を構え、乱世を乗り越えようしました。一方、「西の芦屋に東の天命」といわれたように、鋳物生産も盛んで、数多くの作品が各地に残されています。



青磁 不遊環花生

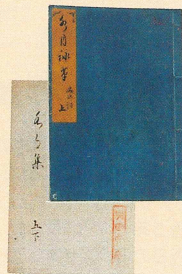


銅 梅竹文透釣燈籠

## 近世の佐野

江戸時代になると佐野氏は春日岡に城替えとなった後、慶長19年(1614)に改易となって領地は幕府直轄領になりました。

その後、寛永10年(1633)に彦根藩領などを経て明治維新を迎えます。この間、天明宿などは日光例幣使街道の宿場町としても繁栄しました。



堀田正敦歌集

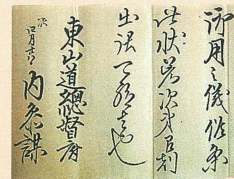


エラスムス像(複製)

## 近代への胎動

幕末期のペリーの来航以来、討幕運動が盛んとなり、佐野周辺でも太平山事件や出流山事件が起こりました。

明治維新によって社会体制は大きく変わり、なかでも廃藩置県によって彦根藩は彦根県、佐野藩は佐野県、旗本領や幕府直轄領は日光県になりました。



東山道総督府内参謀よりの呼出状



太政官高札(彦根県)

## 産業と交通の発展

佐野市域の産業を代表するものは織物業で、なかでも縮縮は明治20年代が最盛期でした。

一方、明治21年に両毛鉄道、同22年に安蘇馬車鉄道があいついで開通し、物産の大量輸送と輸送時間の短縮が実現し、地域の産業経済の発展に大きく寄与しました。



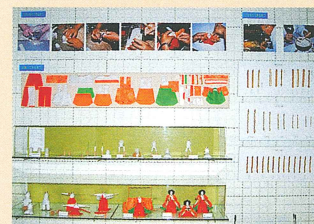
葛生駅付近図絵(安蘇馬車鉄道時代)

## 佐野の隙物

ひな人形や幟、羽子板などの隙物は、江戸時代の末から明治にかけて盛んに作られるようになりました。

その後、日露戦争以降、需要の高まりとともに、販路も日本各地へ広がりました。

多くの職人たちによって培われた各種の技術は、その作品とともに現代まで引き継がれています。



ひな人形制作工程



八丁燃糸機



鍾馗幟